



医療経営士がきっかけとなり 自ら学ぶ事務職が増加 職場の好循環を生み出す

— 医療法人小金井中央病院

1989年に開院した小金井中央病院は一般、地域包括ケア、療養の3種類の病床のほか、サービス付き高齢者向け住宅(特定施設)などの介護事業まで幅広く医療・介護サービスを提供している。事務部門には、5人の医療経営士が在籍。資格取得者に触発されて医療経営士を目指す若手事務職員も増えており、好循環が生まれている。



人間ドックの受け入れ状況について情報を共有、改善を図る



医療経営士が中心となって情報の見える化を目指している




DPCデータの提出にかかわる業務を担当する仁平さん

「医療経営士が事務職の動機づけになっていると感じています。積極的に学ぶ医療経営士に周囲の職員が影響を受け、自らも学ぶという好循環が生まれている。今後、どんどん自己学習をして、ステップアップしていかれることを期待しています(本間さん)

**互いに協力しながら
院内外の人材育成を目指す**

業務内容が異なるため日常業務での協働の場面は限られている

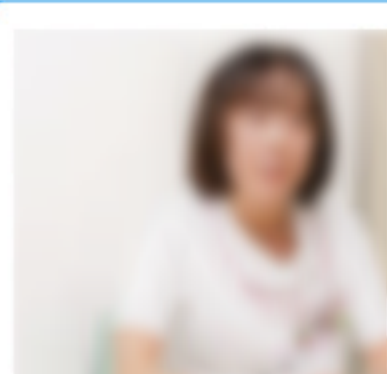


田中宏幸さん
副理事長・副院長

経営判断に資する情報の振り分けができる経営人材がいれば経営者は心強い

私は医師であるため診療については理解していますが、院内すべての仕事を把握するのは難しい面があります。マネジメントを担う人材を育てようにも、知識やスキルをどう評価するかも課題でした。そんなときに医療経営士を知り、経営人材の能力を適切に評価するツールの一つとして取り入れることにしました。もちろん、事務職員の研さん、情報収集にもつなげたいという思いがあります。

今後は、経営判断に資する材料の振り分けができる人材に育ててほしいと期待しています。経営環境が厳しくなるなか、経営者がすべての情報を収集し、一つひとつ振り分けていくのは時間がかかりすぎてしまう。情報を集め、必要なものを振り分け、適切に提案できる人材になってくれたら、ありがたいですね。



小松浩子さん
看護部長

医療経営士は病院や地域を俯瞰し病院が進むべき道を示してほしい

以前は看護師の採用は看護部で行ってきただけですが、病院採用へと変更し、募集から面接、採用まで事務部門の協力を得ながら進めることになりました。従来は「募集がなかったら」「やめてしまったら」と不安に感じるものが少なくありませんでしたが、本間さんをはじめ事務部門の方にお任せできる面が出てきたので、私たちは安心して採用後の育成に力を注げるようになり、結果として今年度は定着率が上がっています。

今後、医療経営士の皆さんには、病院や地域を俯瞰して進むべき道を示していただくことを期待しています。そして、コミュニケーションをとりながら、私たち看護部が病院経営のために何ができるか考えられるようになるのが理想ですね。

資格取得者による勉強会で医療経営士が増加中

「大病院レベルの良質な医療と開業医の温かさを兼ね備えた病院を目指す」を理念に掲げ、近隣医療機関との連携のもと地域医療を担う医療法人小金井中央病院。サービス付き高齢者向け住宅(特定施設)やショートステイも併設し、地域のニーズに対応した幅広い医療介護サービスの提供体制を構築してきた。

現在、同院の事務部には総務課と医療政策課に5人の医療経営士が在籍している。総務課・医療政策課課長の本間貴昭さん、総務課主任の長麻美子さん、医療政策課の大塚健寿さん、仁平紗世さん、総務課の渡辺晴香さんだ。同じ事務部内に所属をしているが、担当する業務はそれぞれ異なる。本間さんは総務・医療政策両課の全体の統括管理、長さんと渡辺さんは人間ドック受診者の予約から当日の受付、各種書類の整備を担当。大塚さんは院内で稼働する病院情報システム全般の保守やデータの集計、仁平さんはDPCデータの提出にかかわる業務を担当している。

もともと、マネジメント人材の育成と適切な評価を目指した田中宏幸副理事長兼副院長が、医療経営士の資格取得を推奨。これを受けて、最初に本間さんがチャレンジ。合格後、本間さんが講師役となって院内で勉強会を開催したことが契機となって徐々に拡大した。

渡辺さんは「総務の仕事は院内のすべての部署とかかわりがあります。医療経営士の資格取得を通じて病院の仕組みを理解でき、全体を見わたしながら対応できるようになったと感じています」と話します。仁平さんは「日々の業務に必要な知識の獲得ばかりに目が向いていましたが、制度や政策などがわかることで地域における当院の立ち位置なども気になるようになりました。今後は、それらを自分の業務とリンクさせながら、他部署と連携をとって改善の提案もできると感じています」と話します。

■ 医療法人小金井中央病院に在籍する医療経営士(2017年10月現在)

本間 貴昭さん	医療経営士1級	総務課・医療政策課課長
長 麻美子さん	医療経営士3級	総務課主任
大塚 健寿さん	医療経営士3級	医療政策課
仁平 紗世さん	医療経営士3級	医療政策課
渡辺 晴香さん	医療経営士3級	総務課

が、今後はともに病院経営の質向上に資する取り組みにチャレンジしたいと考えている小金井中央病院のチーム医療経営士。その一つとして挙がっているのが、より積極的なデータの活用だ。

現在は大塚さんが中心となってデータウェアハウスを構築し、院内の各種システムからデータを収集・活用できる状況を整備している。「情報を二元的に管理し、収集するだけでなく、医療経営士のそれぞれの視点を活かして分析し、見える化していくことができればと思っています」と大塚さん。また本間さんは、この動きをきっかけとして将来的には院内の全部

署を巻き込みながらKPIを設定し、病院経営に貢献していくことを目指している。

もう一つ、取り組みたいと考えているのが人材育成である。同院には全職員を対象に教育・研修を企画する「院内勉強会委員会」が組織されており、総務課はその事務局を担っている。同委員会で取り上げるテーマは幅広いが、今後は医療経営士のメンバーが協力し合いながら、多職種に向けて経営に関する知識取得を目的とした勉強会を実施することも企画している。渡辺さんは「資格取得に向けて学んだことが役立っていますし、院内に複数の医療経営

士がいることで企画を動かしやすいかなと思います」と言う。

さらに、院内だけではなく、地域での経営人材育成にも目が向けられている。「栃木県はまだ医療経営士が少ないので、県全体を盛り上げていくためにも、当院の取り組みに関する情報を発信したり、地域の事務職に向けた勉強会を行いたいと考えています。県内で複数の医療経営士が在籍している医療機関は限られているので、私たちが積極的に、地域に広げる役割を担っていきたいと思います。それにより、院内はもちろん、地域を活性化できたらうれしいですね」と本間さんは抱負を語る。